



株主のみなさまへ

第150期 中間報告書

平成29年4月1日から9月30日まで

エンシュウ株式会社

証券コード 6218



CONTENTS 目次

株主のみなさまへ 2

事業の概況 3

中間連結財務諸表 5

トピックス 7

株式の状況 9

会社の概況 10



本社及び高塚工場



浜北工場



経営理念

売ってよろこび、
買ってよろこび、
作ってよろこび、
一生懸命につとめ
共生共栄を旨とする

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当中間連結期間における我が国経済は、政府の経済政策を背景に企業収益や設備投資に改善がみられ緩やかな回復基調がつづいているものの、米国の外交政策やアジア新興国等の景気減速懸念、北朝鮮問題など不安定な世界情勢が続く中、依然として先行き不透明な状況で推移致しました。

このような情勢の中、当社グループは中国、北米、国内を中心に積極的な受注活動を展開するとともに、生産効率化による損益改善を図ってまいりました。

以上の結果、当中間連結期間の売上高は、工作機械事業部の売上増により、11,110百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

損益につきましては、生産効率化による原価低減の効果によって、工作機械・レーザー事業部門及び輸送機器関連事業部門ともに増益となりました。営業利益は444百万円（前年同期は営業損失170百万円）、経常利益は315百万円（前年同期は経常損失304百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益は280百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失340百万円）となりました。

今年度よりスタートした中期経営計画の達成に向け、初年度である2017年度は黒字回復を目指して全社一丸となって取り組んでおります。株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、配当につきましては、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、財務状態が十分でなく無配とさせていただきます。たく存じます。

平成29年12月



代表取締役社長 社長執行役員

山下晴央

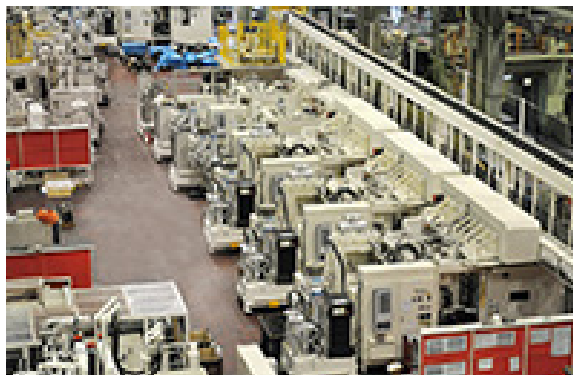
平成29年4月1日から平成29年9月30日に至る当社グループ第150期中間連結期間の事業の概況をご報告申し上げます。

工作機械・レーザー事業部門

日本工作機械工業会は、年初に発表した2017年の受注総額見通し1兆3,500億円を、為替の円安傾向、EMS関連の特需、中国市場の当初予想以上の回復を理由に、1兆5,500億円に上方修正しました。当社においても、システム、汎用機、レーザーのいずれの受注も増加傾向にあり、受注残高は、3年ぶりに100億円を超えることができました。

上期は、システムの売上が期末(9月)に集中したこともあり、売上を予定していた幾つかの物件が下期へずれ込み、その結果、上期の売上計画は未達となりましたが、売上高は6,110百万円(前年同期比18.5%増)となりました。システム物件の採算は前期に比べ着実に改善が進んでおり、営業利益127百万円(前年同期は営業損失268百万円)と黒字化することができました。通期でも期初の損益計画は十分に達成できるものと考えております。

12月7日、8日には、本社ショールームにおいてプライベートショーを開催致します。今回は「Power of ENSHU」というテーマのもと、エンシュウの多彩な技術力、商品力、提案力をアピールしていきます。新機種のGE40H 2APC仕様とピストン加工機、レーザー新技術、IoTへの取組み等を、来場されるお客様にしっかりとご覧いただき、今後の拡販へと繋げてまいります。



▲シリンダーブロック加工ライン(ガントリー搬送)



輸送機器事業部門

輸送機器事業部門につきましては、営業を強化しながら新規部品や試作等の取り込みを積極的に行ってまいりました。主力製品であります大型二輪車用部品の生産が減少したため、全体では減収となりましたが、固定費削減や生産性向上活動などの施策を継続的に推進した結果、上期の利益は前年度を上回ることができました。輸送機器事業部門の売上高は4,964百万円(前年同期比4.4%減)、営業利益は290百万円(前年同期比301.4%増)となりました。

下期につきましては、主力製品であります大型二輪車用及び自動車関連の仕事量が若干減少する見通しですが、引き続き新規顧客の開拓と新規部品の積極的な取り込みを行い、生産性向上と品質向上、原価低減等の各種施策活動の更なるステップアップを図り、損益の改善を努めてまいります。

また、ベトナム工場におきましても生産性向上活動に取り組んでまいります。そして生産の拡大と利益の創出に向けた最適生産体制を発展させ、グローバルにお客様にご満足いただける品質、価格、納期の提供ができるように努めてまいります。



▲カムキャリア加工ライン



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表（要旨）（平成29年9月30日現在）

（単位 百万円 百万円未満は切捨て）

項 目	金 額
●資産の部●	
流 動 資 産	15,862
現金及び預金	2,419
受取手形及び売掛金	4,273
電子記録債権	1,658
商品及び製品	2,352
仕 掛 品	3,609
原材料及び貯蔵品	1,294
そ の 他	345
貸倒引当金	△91
固 定 資 産	14,320
有 形 固 定 資 産	13,899
機械装置及び運搬具	3,371
土 地	7,387
そ の 他	3,140
無 形 固 定 資 産	123
の れ ん	8
そ の 他	115
投資その他の資産	297
そ の 他	300
貸倒引当金	△2
資 産 合 計	30,182

項 目	金 額
●負債の部●	
流 動 負 債	14,725
支払手形及び買掛金	2,453
電子記録債務	1,334
短期借入金	9,035
未払法人税等	64
賞与引当金	221
資産除去債務	69
そ の 他	1,547
固 定 負 債	8,978
長期借入金	3,367
役員退職慰労引当金	15
退職給付に係る負債	3,790
資産除去債務	155
そ の 他	1,648
負 債 合 計	23,704
●純資産の部●	
株 主 資 本	3,705
資 本 金	4,640
資 本 剰 余 金	1,230
利 益 剰 余 金	△2,098
自 己 株 式	△67
その他の包括利益累計額	2,772
その他有価証券評価差額金	2
土地再評価差額金	3,666
為替換算調整勘定	214
退職金給付に係る調整累計額	△1,110
純 資 産 合 計	6,478
負 債 純 資 産 合 計	30,182

中間連結損益計算書(要旨) 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日

(単位 百万円 百万円未満は切捨て)

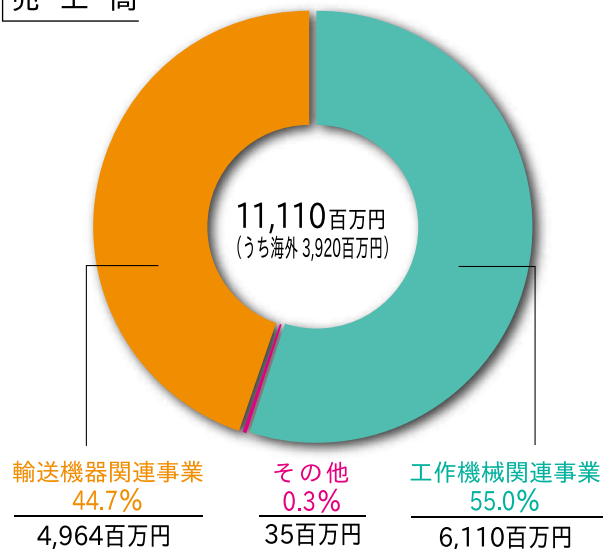
項 目	金 額
売 上 高	11,110
売 上 原 価	9,406
売 上 総 利 益	1,703
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,259
営 業 利 益	444
営 業 外 収 益	28
営 業 外 費 用	157
経 常 利 益	315
特 別 利 益	1
特 別 損 失	0
税金等調整前中間純利益	316
法人税、住民税及び事業税	37
法人税等調整額	△1
親会社株主に帰属する中間純利益	280

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日

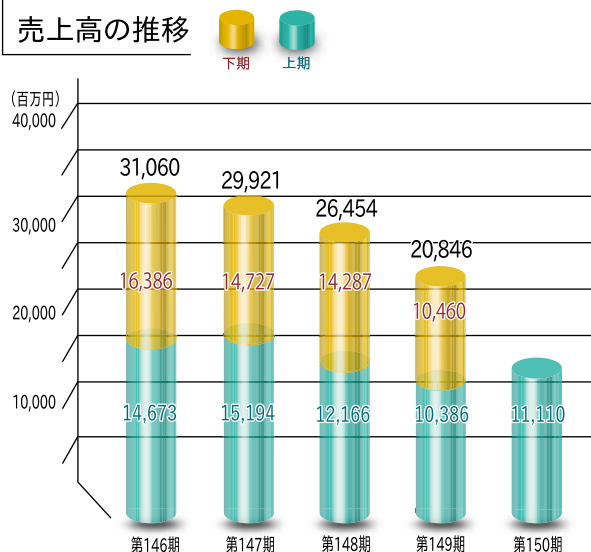
(単位 百万円 百万円未満は切捨て)

項 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	72
投資活動によるキャッシュ・フロー	△329
財務活動によるキャッシュ・フロー	△112
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△377
現金及び現金同等物の期首残高	2,602
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,225

売 上 高



売上高の推移





日本工作機械工業会の受注総額は昨年比で120%を超える受注となっており、当社においても、150期上期では、昨年比171%の受注を獲得することが出来ました。

■レーザークラッドの導入

トヨタ自動車株式会社と共に開発したレーザークラッドバルブシート加工機が、同社の新世代TNGAエンジン量産ラインへ採用されました。厳しい試験ラインでの評価をクリアし、納入立上を経て、量産も開始されました。今後数年にわたり、世界各地の工場に導入が見込まれます。

■EMO2017に出展

2017年9月18日から23日の6日間、ドイツ・ハノーバー国際見本市会場にてEMO Hannover 2017 が開催されました。東京ビックサイトの5.3倍のスペースと会場スケールの大きさは世界四大展示会の中でも群を抜き、45カ国・地域から2,187社の出展がありました。当社はWE30Ve、GE40H、ピストンオーバル加工機とピン穴加工機を展示しました。



■メカトロテックジャパン2017に出展

10月18日から21日には、ポートメッセなごやで開催された「メカトロテックジャパン2017」に出展いたしました。中部地域は自動車や部品を供給する部品メーカーの集積地です。当社の主要なお客様は自動車関連が多く、CO₂削減への対応により、大きく市場環境が変化することが予想されます。当社が今までに培ったレーザー技術とマシニングセンタによる加工ノウハウをアピールして、業績向上に努めてまいります。



■当社製のマシニングセンターの活用と新規部品受注への取り組み

輸送機器事業部といたしましては、当社製のマシニングセンターを使い、効率よいライン作りをすることによってお客様のご要望に答える製品を供給できる体制づくりに取り組んでおります。

上期においては、試作品や応援部品を短期で立上げたことで、仕事量の確保と利益の創出に貢献することができました。また、新規部品の受注を確実に取り込んでいく活動の成果が出始めており、現在、IoTの新技術も導入しながらのライン作りに取り組んでおります。引き続き、品質向上、原価低減活動の成果を着実に積み重ねながら、お客様に喜んでいただけるよう努めてまいります。

■ベトナム工場との連携強化

ベトナム工場におきましては、順調に出荷数を増やし、品質強化、コストダウン、生産性向上の取組み等により、増収増益を見込んでおります。

これからも継続してベトナム工場を活用した最適生産体制を構築していく中で、国内工場の生産再構築も進めてまいります。そして、日本とベトナムの連携を強化し、今後さらにお客様にご満足いただけるように努力してまいります。



▲ENSHU VIETNAM工場 原則(品質強化)活動キックオフ



株式の総数・資本金

発行可能株式総数	150,000,000株
1単元の株式数	1,000株
発行済株式の総数	63,534,546株 (自己株式 456,527株を含む)
資本金	4,640,850,000円

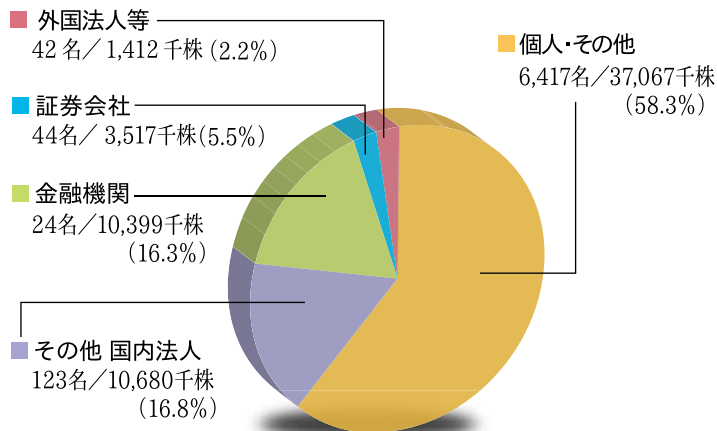
大株主

ヤマハ発動機株式会社	6,457千株 (10.23%)
エンシュウ取引先持株会	6,402千株 (10.14%)
浜松ホトニクス株式会社	2,000千株 (3.17%)
株式会社みずほ銀行	1,572千株 (2.49%)
みずほ信託銀行株式会社	1,455千株 (2.30%)
株式会社りそな銀行	1,414千株 (2.24%)
エンシュウ従業員持株会	1,015千株 (1.60%)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口5)	963千株 (1.52%)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	846千株 (1.34%)
日本証券金融株式会社	845千株 (1.33%)

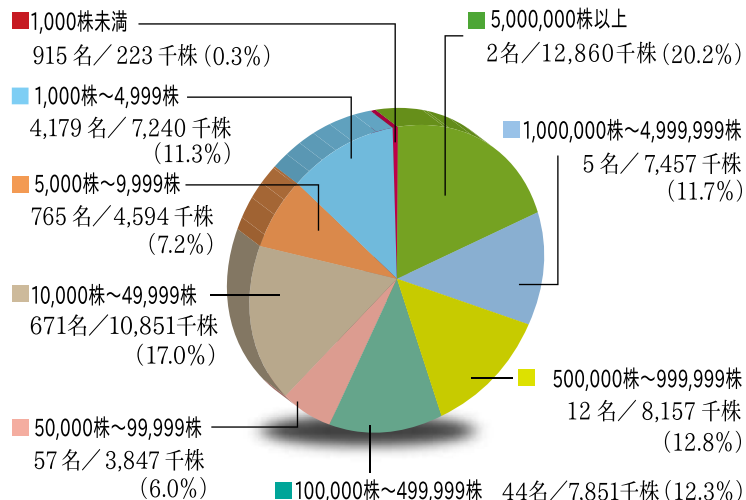
(注) 比率は発行済株式総数から自己株式を控除して計算しております。

株主の構成

所有者別株式分布状況 合計:6,651名/63,534千株



所有株数別分布状況 合計:6,651名/63,534千株



(注) 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況

商 号	エンシュウ株式会社(英文ENSHU Limited)
設 立	大正9年2月5日
資 本 金	46億4,085万円
発行済株式総数	63,534,546株
株 主 数	6,651名
従 業 員 数	1,051名(連結)
生 産 品 目	工作機械、輸送機器関連部品 レーザー加工機

事業所

本社及び工場 〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町4888 電話 053-447-2111(代)

浜北工場 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-0211(代)

営業部・支店

営 業 部 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-4771(代)

東 京 支 店 〒140-0011 東京都品川区東大井4-13-15 (スターハイツ)
電話 03-5479-1671(代)

大 阪 支 店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-43 (ファサード江坂ビル)
電話 06-6338-2471(代)

サービスステーション / 東北・金沢・広島・九州

海外拠点

ENSHU (USA) CORPORATION (アメリカ・シカゴ)

ENSHU USA CORPORATION MEXICO R.O.W.I (メキシコ・ケタロ)

ENSHU GmbH (ドイツ・フランクフルト郊外)

ENSHU (Thailand) Limited (タイ・バンコク)

BANGKOK ENSHU MACHINERY Co.,Ltd. (タイ・バンコク)

PT. ENSHU INDONESIA (インドネシア・ジャカルタ)

ENSHU (QINGDAO) LIMITED (中国・青島)

ENSHU (QINGDAO) MACHINERY CO.,LTD. (中国・青島)

ENSHU(QINGDAO) Limited Suzhou branch Office (中国・蘇州)

ENSHU INDIA PVT Ltd. (インド・グルガオン)

ENSHU VIETNAM Co.,Ltd. (ベトナム・ハノイ)



取締役体制

(平成29年9月30日現在)

代表取締役社長	山下晴央
代表取締役	勝倉宏和
社外取締役	墨岡良一
取締役 (常勤監査等委員)	中村泰之
社外取締役 (監査等委員)	石塚尚
社外取締役 (監査等委員)	嶋津忠彦

執行役員体制

(平成29年9月30日現在)

社長執行役員	山下晴央
副社長執行役員 (兼管理本部長)	勝倉宏和
上席執行役員 (工作機械・レーザー事業部長)	鈴木敦士
上席執行役員 (工作機械・レーザー事業部副事業部長)	富田敏弘
上席執行役員 (工作機械・レーザー事業部副事業部長兼企画開発部長)	鈴木利夫
上席執行役員 (輸送機器事業部長)	松永浩一

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

剰余金の配当の基準日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日

定時株主総会 毎年6月下旬

なお、定時株主総会において権利を行使することができる株主は、毎年3月31日最終の株主名簿に記載された議決権を有する株主となります。

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

公告方法 電子公告 (<http://www.enshu.co.jp/koukoku/>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株式の上場 東京証券取引所市場第一部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

単元未満株式(1～999株)を 保有されている株主のみみなさまへ

単元未満株式は
市場における自由な売買ができません。

単元未満株式(1株から999株)を保有されている株主のみみなさまからの、単元未満株式の買取請求をお受けしております。手数料はかかりません。

当社株主名簿管理人・特別口座管理機関
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
にお問合せください。
0120-288-324 (フリーダイヤル)

【ご注意】

証券会社等の一般口座で保有する単元未満株式については、お取引先の証券会社等を通じてお手続きをしていただくようになりますので、株主様のお取引先の証券会社等にお問合せください。



ホームページのご案内

当社はインターネット上で最新の情報を皆様にご提供しております。

ホームページアドレス <http://www.enshu.co.jp>